

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 18 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520294

研究課題名(和文)トマス・ハーディ『森林地の人々』の創作過程の解明

研究課題名(英文)The Evolution of Hardy's Woodlanders

研究代表者

上原 早苗 (Uehara, Sanae)

名古屋大学・国際言語文化研究科・教授

研究者番号：00256025

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：トマス・ハーディは、『森林地の人々』(The Woodlanders)の原稿を執筆するにあたり、推敲に推敲を重ねたが、その創作過程は等閑に付されてきた。本研究では『森林地の人々』の原稿内部の異同を検証することで創作過程を明らかにし、それを視覚的に提示する生成批評版を作成した。また、その作業を通して、この小説に固有の創作の文法を明らかにした。上記の成果に加えて、『カスタブリッジの町長』(The Mayor of Casterbridge)および『日陰者ジュード』(Jude the Obscure)の生成過程を分析の俎上に載せることで、テキストに算出された新たな意味効果についても吟味検討した。

研究成果の概要(英文)：This study was concerned with Thomas Hardy's writing process of The Woodlanders, reproducing as accurately as possible, significant features of his holograph manuscript of the novel, and exploring the complex dimensions of his grammar of revisions. It also dealt with his creative processes of The Mayor of Casterbridge and Jude the Obscure, focusing on literary effects of his revisions.

研究分野：ヴィクトリア朝小説

キーワード：英語圏文学 トマス・ハーディ 草稿研究 ヴィクトリア朝小説 出版制度 検閲

1. 研究開始当初の背景

ハーディ研究では、ハーディの小説の生成過程を解明するべく、1960年代以降にいわゆる「草稿研究」が盛んに行われ、代表作と称される小説の創作過程は、『森林地の人々』を除くと、概ね明らかにされている。

『森林地の人々』の原稿は、デイル・クレイマーによって研究された時期(1970年代から80年代)があるが、残念ながら、原稿内部の推敲・改変の軌跡はほとんど明らかにされなかった。それは一つには、この小説の原稿が他の原稿に比べて劣化が著しく、判読不可能な箇所が多かったことによる。その後、原稿は補修作業のため長らく閲読対象外の資料とされ、クレイマー以降、『森林地の人々』の原稿は研究されていない。

クレイマーによると、ヴィクトリア朝イギリス社会ではグランディズムという検閲制度があり、(1)ハーディは、『森林地の人々』を『マクミラン』誌に連載するにあたり、編集者の検閲を度々受け性的な挿話や表現を削除・修正せざるをえなかった、(2)そのためハーディは、次第に検閲に先んじて自ら表現を修正するようになり、原稿にはハーディ本人による自己検閲の跡が認められる、(3)同様のことは、ハーディの他の小説についても言えることであり、ここに、原稿(初期形)/原稿(最終形)、開放されたエロス/抑圧されたエロス、というハーディの執筆の公式が認められるという(Dale Kramer, "Revisions and Vision: Thomas Hardy's *The Woodlanders*," *Bulletin of the New York Public Library* 75 (1971), p. 230)。

平成22年度に、『森林地の人々』の原稿の補修作業が終了し、閲読が可能となったことから、また補修作業の結果、これまで解読不可能だった箇所のうち解読可能となった箇所が多いことから、申請者(上原)は、原稿の一部の分析を試みた。その結果、『森林地の人々』を統べるのは必ずしも上記の図式ではないということがわかってきた。『森林地の人々』の場合、むしろ編集者の検閲に抗って、ハーディが語りをエロス化するような方向に手を入れている箇所が多く認められる。つまり、その改変は研究者に広く流布する、原稿(初期形)/原稿(最終形)、開放されたエロス/抑圧されたエロス、という二元論的な図式に解消されえないと考えられるのである。本研究は、『森林地の人々』の原稿内部の改変をすべて精査することで、この小説に固有の創作の規則に迫ろうとするものである。

先にも述べたとおり、『森林地の人々』の

生成過程に関する包括的研究は発表されていない。原稿を分析したものとしては、クレイマーの“Revisions and Vision”(前掲)があるが、分析対象とされたのは、ごく一部の原稿に限られている。またクレイマー編纂の *The Woodlanders* (Oxford: Clarendon, 1981) は学術的な校訂版ではあるものの、残念ながら原稿内部の異同は記されていない。このように『森林地の人々』の生成過程については、全容解明の手掛かりはつけられているが、包括的な研究はその重要性にもかかわらずなされていないというのが、研究開始当初の状況であった。

2. 研究の目的

トマス・ハーディは『森林地の人々』(*The Woodlanders*, 初出1887年)の原稿を執筆するにあたり、推敲に推敲を重ねたが、その生成過程は、研究開始当時はほとんど明らかにされていなかった。そこで、本研究では、ハーディの自筆原稿内部の異同を検証することで、『森林地の人々』の創作過程を解明しようとするを旨とした。創作過程を視覚的に提示する生成批評版を作成し、『森林地の人々』に固有の創作の文法を明らかにすることを最終目標とすることとした。

3. 研究の方法

本研究はその方法において、(1)『森林地の人々』の原稿解読、(2)生成過程の転写(生成批評版の作成)、(3)ハーディの創作の文法の提示、というふうに三分される。『森林地の人々』の原稿は補修作業が終了したとはいえ、依然として、ハーディの他の原稿に比べて劣化が著しく、研究開始当初は、原稿498葉すべての解読には多大な時間がかかることが十分に予想された。そこで、平成23年度から平成25年度は、(1)原稿解読と(2)転写に専念し、平成26年度に研究は、(3)ハーディの創作の文法の提示へと移行することとした。

4. 研究成果

平成23年度から原稿の解読に従事し、一部、解読不可能なところはあったものの、作業は思いの外、順調に進んだ。そこで、研究成果の一部を国際学会にて口頭発表したところ、フロアーの草稿研究者から好意的な意見が多く寄せられ、学会誌への投稿を懇請された。それを受けて、学会終了後に、口頭発表の原稿に大幅な加筆修正を施し、査読付き学術誌、*British and American Studies* へ投稿したところ、掲載されたのは一つの成果であった。

生成批評版および創作の文法については、完成に向けて最終段階に入っている。その成果は、単著 *The Profitable Reading of Fiction* として纏めているところであり、平成

27年度中に、アルム出版から刊行が予定されている。

また、『森林地の人々』の創作パターンは、『日陰者ジュード』(*Jude the Obscure*, 初出1895年)および『カstabブリッジの町長』(*The Mayor of Casterbridge*, 初出1886年)と類似しているところがあり、平成25年度は、『日陰者ジュード』について、また平成26度は『カstabブリッジの町長』についても分析を組上に載せることとした。その成果の一部は、第1回国際ナラティブ学会(主催、名古屋大学大学院国際言語文化研究科、2013年12月)において発表した。基調講演者のローズマリー・モーガン教授(アメリカ・ハーディ学会会長)からは好意的なコメントを頂き、原稿をアメリカ・ハーディ学会会報 *Hardy Review* に寄稿するようとの懇請があった。

さらに、ハーディの自筆原稿に窺われるグランディズムという名の検閲制度と明治期のハーディの翻訳テキスト(『運命小説テス』、東京、榊原文盛堂、1912年)に刻印された伏せ字は、出版社による自己検閲という点で類縁性があり、それを比較文化史的観点から国際トマス・ハーディ学会(2012年8月、ドーチェスター)で発表したところ、グローバル・サーキュレーション・プロジェクトの一つ、グローバル・ハーディ・プロジェクトへの参加を懇請された。

グローバル・サーキュレーションとは、ポスト構造主義以降、著しい展開を見せているトランスレーション・スタディーズの知見を活かしながら、起点テキスト(原典)が目標言語・文化に遭遇する際にテキストに刻印される政治性を明らかにしようとする試みである。平成27年度以降は、グローバル・サーキュレーションの観点から、イギリスやインド、中国、韓国、ルーマニアを始めとする、計10カ国のハーディ研究者とともに、グローバル・ハーディ・プロジェクトに参加することとなった。

このように海外の研究者との学問上の絆が本研究から次々と生まれ、また、本研究の剰余価値の一つである明治期の伏せ字研究から、平成27年度以降の科学研究費基盤(C)「出版の政治学—ハーディの受容研究(課題番号:15K02297)」という次のプロジェクトが胚胎・始動したことも、大きな収穫だったと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件、うち査読付き論文2件)

Sanae Uehara, “Deception and Desire: Hardy’s Revisions to *The Mayor of Casterbridge*”, the *Hardy Review* 13 (Thomas Hardy Association, USA, 2011): 158-67.

Sanae Uehara, “What the Manuscript Tells Us: Grace Melbury in *The Woodlanders*”, *British and American Studies* (Timisoara, 2014): .

〔学会発表〕(計6件、うち招待講演1件)

Sanae Uehara, “The Profitable Reading of Fiction: Hardy’s Extended Creative Process and the Case of Susan and Tess”, Hardy at Yale II, hosted by the Thomas Hardy Association USA (Yale Centre for British Art, 9 June 2011). (招待講演)

Sanae Uehara, “What the Manuscript Tells Us: Grace Melbury in *The Woodlanders*”, the 22nd International Conference on British and American Studies, hosted by the University of West, Timisoara, Romania (University of West, 18 May 2012).

Sanae Uehara, “Who’s Afraid of Censors? Introducing Hardy in Meiji Japan”, the 20th International Thomas Hardy Conference, hosted by the Thomas Hardy Society, UK (United Church, Dorchester, 23 August 2012).

Sanae Uehara, “What Can We Gain by Examining Hardy’s Compositional Changes?”, the 2nd International Conference on ELLE, hosted by Partium Christian University, Oradea, Romania (Partium Christian University, 15 September 2012).

Sanae Uehara, “How May We Interpret Sue’s Story?”, 1st International Conference on Narrative, hosted by the Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University (Conference Hall, Nagoya University, 7 December 2013).

Sanae Uehara, “Concealing Silence?”, 2nd International Conference on Narrative, hosted by the Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya (Conference Hall, Nagoya University, 20 December 2014).

〔図書〕(計4件)

Sanae Uehara, “How May We Interpret Tess’s Story”, *Between Philology and Hermeneutics: GCOE Conference Series No. 11* (Nagoya: ARM, 2011).

上原早苗、「模倣される言葉—ハーディの自筆原稿を読む」『イギリス文学のランドマーク』(大阪教育図書、2011年)

Sanae Uehara, “Sue’s Voice: A Note on the Narrative in *Jude the Obscure*” *Hardy and James: International Conference Series No. 1* ed. Sanae Uehara (Nagoya: ARM, 2014), 1-59.

Sanae Uehara, “Concealing or Revealing Silence?: The Narrator and Susan in *The Mayor of Casterbridge*”, *Silence: International Conference Series No. 2* ed. Sanae Uehara and Mark Weeks (Nagoya: ARM, 2015), 1-61.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

上原早苗 (UEHARA SANAE)
名古屋大学大学院国際言語文化研究科・教授
研究者番号： 00256025

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし